

ポスター発表 | 外科治療（諸問題）

■ 2025年7月12日(土) 10:40～11:40 ■ ポスター会場（文化会館棟 2F 第1・2ギャラリー）2

ポスター発表（III-P02-2）

外科治療（諸問題）

座長：安東 勇介（九州大学心臓血管外科）

座長：木村 成卓（慶應義塾大学 外科学（心臓血管））

[III-P02-2-02] 新たな心血管修復パッチ・シンフォリウムの使用経験

○小坂井 基史¹, 村山 弘臣¹, 岡田 典隆¹, 山本 隆平¹, 正木 祥太¹, 安田 和志², 河井 悟², 鬼頭 真知子², 今井 祐喜², 田中 優², 野村 羊示² (1.あいち小児保健医療総合センター 心臓血管外科, 2.あいち小児保健医療総合センター 小児循環器科)

キーワード：心臓修復用パッチ、先天性心疾患手術、ファロー四徴症

【緒言】シンフォリウムは2024年6月から販売が開始された、本邦発の新たな心血管修復用パッチである。本製品は吸収系と非吸収系からなる編物に架橋ゼラチン膜を一体化した合成素材であり、生体内でゼラチン膜が自己組織と置き換わりながら分解される。その後吸収系が分解されて非吸収系がほどけることで、誘導された自己組織に伸張性が付与され、成長に伴う再手術リスクの軽減が期待できる。【目的】当院での経験をまとめ、希少な症例を提示する。【方法】シンフォリウムを使用した8例、計11件の埋植を検討した。【結果】手術時月齢は中央値で49.2ヶ月、体重は8.2 kg。主診断はファロー四徴症（TOF）3例、両大血管右室起始症（DORV）2例、肺動脈閉鎖症1例、大動脈縮窄複合1例、修正大血管転位（ccTGA）1例で、術式はTOF修復術3例、肺動脈形成術3例（単独1例、肺静脈狭窄解除と併施1例、右室肺動脈導管置換と併施1例）、DORV修復術1例、modified Konno手術1例であった。埋植部位は、右室流出路5件（うち trans-annular patch 3件）、主肺動脈2件、右肺動脈2件、心室中隔1件、肺静脈-左房経路1件であった。死亡、再手術を含めた再介入、主要合併症などの有害事象は認めなかった。【症例1】1歳女児。TOF修復術で trans-annular patchとしてシンフォリウムを使用した。半透明のシンフォリウム越しに、ePTFE sheet製のmonovalveがほとんど動いていないことが透見されたため、修正を要した。【症例2】3歳男児、ccTGAで double switch手術後。Senning経路の狭窄が進行し、シンフォリウムで拡大した。【症例3】16歳男児。DORV術後の両心室流出路狭窄に対して modified Konno手術を施行、心内 re-routingと RVOTの拡大にシンフォリウムを使用した。【まとめ】シンフォリウムは様々な部位で安全に使用することができた。止血に困難を感じることもあったが、吻合操作や止血法を工夫することで改善できた。